

教師から見た児童生徒の適応を損なう人間関係の実際

○ 越 良子（上越教育大学）

安藤美華代（岡山大学）

目 的

学校では、児童生徒の不適応を予防するために様々な予防教育が行われている。これらの多くは児童生徒の人間関係の育成や改善を意図したものであり、教師たちが児童生徒の人間関係に問題意識をもっていることを示すものである。では「児童生徒の人間関係の問題」とは具体的にどのようなものなのか。児童生徒は、どのような適応を損ないかねない人間関係をもっているのか。本研究では、全国自治体の教育センターに対して質問紙調査を行った。

方 法

調査対象 全国の都道府県立・市区町村立教育センター及び教育研究所 169 カ所に質問紙を郵送し、74 カ所から所属教師による回答を得た（回収率 43.8％）。

手続き 質問紙において、児童生徒の人間関係の問題とは具体的にどのようなことと考えるか記述を求めた。なお、この他にも質問項目があり、その結果の一部は越・安藤（2013）に報告された。

実施時期 平成 23 年 5 月末から 6 月末

結果と考察

延べ 126 件の自由記述を 3 人の判定者により K J 法を援用して分類し、それに基づき筆者らが上位カテゴリーを生成した（表 1）。得られたカテゴリーのうち、認知の偏りや感情コントロールは自己表現や他者理解の問題と関連し、他者との表面的な関わりの背景には、自己防衛すなわち自己肯定感の不足が考えられる。児童生徒の不適応問題は、集団内の課題、個々の対人関係の課題、個人的課題、家庭等も含む環境的な課題などに渡って複合的であると考えられた。予防教育プログラムの併用の必要性、あるいは、それを実施する学級そのものの下地づくり（つまり学級経営）の重要性が示唆される。

表 1 教師から見た児童生徒の人間関係の問題

上位カテゴリー	カテゴリー（記述数）	記述内容
集団内の課題	集団内での自己表現の難しさ(22件)	本音を言えない 自己表現が適切にできない 仲間への過剰な気遣い
	集団意識の欠如(1件)	集団の一員としての意識の欠如
個々の対人関係の課題	他者との表面的な関わり(27件)	対人関係が表面的 他者と関わろうとしない 他者に無関心
	他者との消極的限定的関わり(7件)	価値観の同じもの同士の排他的グループ化 集団としてまとまらない
	コミュニケーション能力・スキルの不足(29件)	他者を配慮し理解できない コミュニケーション能力の不足 人間関係の修復ができない
個人的課題	主体性の乏しさ(2件)	自立できない 指示待ち
	自己肯定感のなさ(4件)	自己肯定感のなさ
	認知の偏り(3件)	物事を公平に見られない 相手の話を公平に聞けない
	感情コントロールの難しさ(7件)	感情コントロールの未発達 キレやすい
家庭の課題	保護者の問題(10件)	子どもへの関わり方 視野の狭さ
環境的な課題	他者と関わる場の不足(10件)	機会の不足 地域・異学年の交流不足
	携帯電話による縛り(1件)	携帯電話に縛られる